Challenge!
家庭菜園

タマネギ

品種を使い分けて長く利用する

園芸研究家●成松次郎



タマネギの生育は、15～20度の冷涼な気候が適しています。10度以下では生育が停止しますが、春になり気温が上がり、日が長くなって肥大します。タマネギは連作ができるので、家庭菜園の作付けにとって大変有利です。

［品種］早生系品種は収穫期が早い半面、貯蔵性に劣ります。反対に晩生系品種の収穫期は遅い半面、貯蔵性に優れます。長く収穫と利用を楽しむには早生と中生品種を作ることをお勧めします。

［苗作り］種まき適期は、中間地では極早生８月下旬～９月上旬、早生９月上旬、中生９月中旬、晩生は９月下旬です。早くまき過ぎると、越冬するまでに寒さに感応し、とう立ちすることがあります。

種まき２週間前までに、１㎡当たり化成肥料100g（NPK各成分10%）、堆肥２kg、過リン酸石灰100gをまき、よく耕します。幅70～80cmのベッドを作り、条間約10cmで短冊状に深さ0.8～１cmの溝を切ります。そこへ、約１cm間隔で種をまき、軽く覆土します（図１）。その後、不織布を敷き、乾燥と強雨対策を行います。発芽後に不織布を除き、本葉２枚の頃、込み合った所を間引いて苗とします。草丈が約10cmの頃、１㎡当たり化成肥料約20gを条間にまき軽く耕します。

［畑の準備・植え付け］植え付け２週間前に、１㎡当たり苦土石灰100gを散布してよく耕しておきます。１週間前に化成肥料（NPK各成分10%）200g、過リン酸石灰50g、堆肥２kgを全面にまき、深さ15～20cmに耕します。ベッド植え（4、5条植え）にする場合は幅90～100cmの栽培床を作り、条間、株間共に約15cmの穴開き黒マルチを張ります。草丈20～25cm、太さ５～８mm程度の苗を掘り上げ、葉ざや部が２、３cm埋まる深さで植え付けます（図２）。

［追肥］１月上旬～中旬と２月中旬～３月上旬に、１㎡当たり化成肥料約20gを株元（マルチ穴）に施します。

［病害虫防除］病気では、赤色斑点のさび病、黄白色で不定形のくぼんだ病斑のべと病、害虫では、葉が白くかすり状となるネギアザミウマなどが見られるときは、登録農薬で防除します。

［収穫］畑全体の７、８割の茎葉が倒れたら引き抜きます（図３）。２、３日、日に当てて干してから、数球ずつ束ねて風通しの良い所につるし、保存（貯蔵）します（図４）。

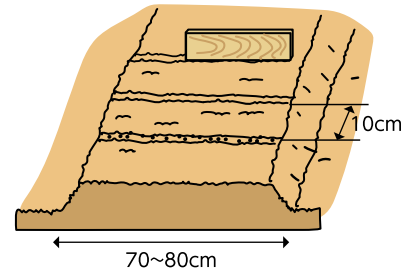


図1　種まき

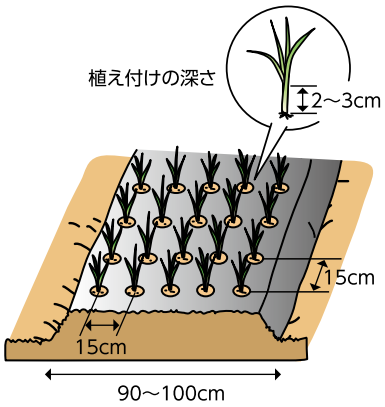


図2　植え付け

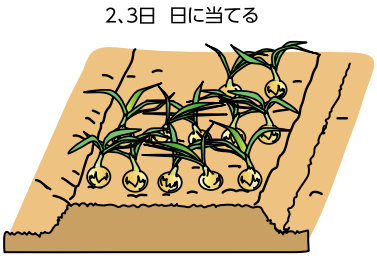


図3　収穫

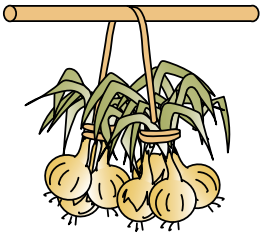


図4　保存（貯蔵）

栽培カレンダー（タマネギ）

気候帯	早晩生	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	貯蔵期間
中間地暖地	極早生	●	●	▲	▲						■		貯蔵に向かない
	早生		●	▲	▲						■		8月上旬まで
	中生			●	▲	▲					■		年内まで
	中晩生晩生			●	▲	▲					■		翌2月末まで

● 種まき　- - - 苗作り　▲ 植え付け　— 生育　■ 収穫

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。